

International GAP（国際的適正農業規範）対応の 食料管理専門職業人の養成

ニュースレター No.5 (2013.07.16)

発行：GAP 事業推進室 TEL/FAX：0985-58-7165 E-mail：muigap@cc.miyazaki-u.ac.jp URL：http://www.cc.miyazaki-u.ac.jp/muigap/



宮崎大学農学部は本事業で「GAP 教育プログラム」の構築を目指しています。事業年数4年のうちの2年間で、プログラムの大枠ができました。今回は、その中でプログラムの中心となる科目をいくつか紹介します。

GAP を科学的に学ぶ

「GAP 模擬実習」を2013年1月に試行しました。これは、GAP 教育プログラムの中で「GAP コア科目」に位置付けているもので、植物生産環境科学科1年生が対象です。今回は、最先端機器を使用して、残留農薬の分析や作業者の作業負担を測定する実験を行いました。

残留農薬分析実験では、植物生産環境科学科の教員だけでなく、他学科の教員もそれぞれの専門分野の視点で講義を行いました。また、最先端機器を使用した分析も行い、学生たちは、初めて見る分析機器にとっても興味を示していました。

作業負担の測定実験では、学生自らが機器を装着し、作業の強さと自身の心拍数、酸素摂取量の関係を測定しました。学生からは「実際に機器を使用して測定できたので、面白かった」「作業の強さと農業者の負担について理解できたので、これを農業に活かしたいと思った」との声が聞かれました。



農場実習に見られる GAP 導入効果



附属農場のGAP導入に伴って、農場実習の内容が変化しています。

まず、学生たちの服装が農場GAPルールに基づいたものになりました。たとえば「肌を露出しない作業服を着用する」「ズボンの裾は長靴の中に入れる」などです。

収穫作業では、実際に農場で行ったリスク分析表を使用して、収穫に関する注意事項を「なぜ、この作業をする必要があるのか」など、学生に分かりやすく説明しています。調製作業では「作業前の手洗いや作業時の手袋の着用」を行い、衛生面のリスクを減らす取り組みを取り入れました。

農業機械の操作についても、使用前点検を農場職員とともに行うことで、機械の仕組みをより詳しく知ることができ、安全に使用方法も学べるようになりました。

実習に使用する農具類の管理方法も変わりました。たくさんある農具類とそれぞれの収納場所に同じ番号をつけ、決められた場所に片付けるようにしました。実習中に学生たちは、配られた農具を番号で識別できることから、各自が実習終了まで責任を持って、農具の管理ができるようになっていました。

1 年生対象、GAP 概論

GAP の基本的な内容を学ぶ「GAP 概論」を 2013 年 4 月、植物生産環境科学科の 1 年生を対象として、試行しました。講義では、国連食糧農業機関 (FAO) や農林水産省が示している GAP の定義や歴史、世界や我が国の現状を説明した後に GAP に取り組む意義や点検項目のイメージなどを説明しました。また、GAP を導入指導できる人材が様々な分野で必要とされていることや、GAP 教育プログラムについても説明しました。

学生からは「もっと詳しく GAP を知りたいと思った」「JGAP 指導員にとっても興味を持ちました」など GAP を更に学びたいとの声が多く聞かれました。また、GAP 認証について「安全性が目に見え、他国の農産物との競争に勝てるのではないか」「これからの農業界を切り開いていくために必要なもの」と世界を視野に入れた声も聞かれました。

学生からは「もっと詳しく GAP を知りたいと思った」「JGAP 指導員にとっても興味を持ちました」など GAP を更に学びたいとの声が多く聞か

学外協力機関の意見をもとに改善を

本事業の学外協力機関および農学部部長や副学部長らからなる「国際標準 GAP 検討委員会」を 2013 年 2 月に開催しました。

今回は、本事業期間 4 年のうち 2 年が過ぎようとした時期に行い、これまでの進捗状況を本学農学部 GAP 教育プログラム実施委員会から報告し、これに対する意見交換を行いました。その中で、学外委員から教育プログラムの構成に対しては、一定の評価をいただきました。また、社会で即戦力として必要とされる人材像や必要な知識などの意見もいただきました。これらの意見を受けて、

プログラム実施委員会で改善案を検討しています。まずは、出来ることから、農場実習に GAP の項目を自己点検しながら学べる「自己点検チェックシート」を導入しました。これにより、学生は実習で行われる内容と GAP の取り組みとの関係により深く理解できるようになりました。



穀物でも JGAP 認証取得

本学農学部附属フィールド科学教育研究センター木花フィールド（農場）が、2012 年 12 月に JGAP 穀物 2012 認証を取得しました。これは、2011 年 12 月に取得した JGAP 青果物 2010 認証に続いたもので、これにより附属農場で行われる学生実習は全て JGAP 認証圃場で実施されることになりました。現在は、学生教育

に活かすこと目的に GLOBALG.A.P. の認証取得に向けて取り組みを行っています。



『International GAP 対応の食料管理専門職業人の養成』ニュースレターは、宮崎大学の人材養成の取り組みを広く紹介するために、農業法人や食品関連企業などの関係者に配信しています。このニュースの配信を希望される方を募集中です。GAP 事業推進室までご連絡下さい。

JGAP 指導員資格取得者が社会へ

昨年 10 月に誕生した 37 名の JGAP 指導員が現在、4 年生となり社会へ飛び立つ準備をしています。学生たちは履歴書に JGAP 指導員資格のことを記入して就職活動にのぞんでいます。その結果、面接の際に JGAP 指導員資格や GAP のことが話題になった、という実例も出てきています。今年も、JGAP 指導員資格を取得することができる「GAP 指導員講座」を 7 月 6 日、7 日に行いました。



GAP 教育プログラムを学会で報告

GAP 教育プログラムの開発状況について、3 月に GAP 事業推進室木下統室長が農作業学会春季大会で報告を行いました。また、同学会で真智代室長補佐が附属農場の GAP 導入取り組みについて報告しました。

【お問い合わせ】GAP 事業推進室

〒889-2192 宮崎市学園木花台西 1-1
宮崎大学農学部 (N708 号室)

PHONE/FAX : 0985-58-7165

E-mail : muigap@cc.miyazaki-u.ac.jp

URL : <http://www.cc.miyazaki-u.ac.jp/muigap/>